

## 墨書土器

菰野町大字田光字下江平の圃場が、整備事業に絡み、昭和 61 年度と昭和 62 年度に包蔵推定地 200000 m<sup>2</sup>の内、100000 m<sup>2</sup>の発掘調査が実施され、**墨書土器**が発見された。この地は、事前に行なわれた試掘調査で大規模な包蔵地であることが確認され、**下江平遺跡**と命名されている。当遺跡は、秩父古生界と花崗岩類からなる鈴鹿山脈の麓、朝明川とその支流である田光川に挟まれた標高 63～74mの、東へ緩やかに傾斜する根の平扇状地の東側に位置する。発掘調査の結果、奈良時代から室町時代のものと推定される、須恵器・土師器など、多くの出土物が確認された。中でも、竪穴住居や土坑埋土から発掘された土師器あるいは須恵器に、外面に「倭家」、内面と外面にそれぞれ「交」と「財」、他にも「五十戸」や「本(奉)井」と記した奈良時代のものと思われる墨書土器が発見され、注目を集めた。集落が形成され、その豪族や里長が所有したものではないかと推測される。



「倭 家」



「交 (内面)」



「財 (外面)」